仏事を学ぶ 第十三回

お経の意味⑩

今回は、主に葬儀や年回供養の際にお唱えする『舎利礼文』『十句観音経』、御祈祷の際にお唱えする『消災妙吉祥陀羅尼』について学びましょう。

【舎利礼文 原文】

一心頂礼　万徳円満　釈迦如来　真身舎利　本地法身　法界塔婆
我等礼敬　為我現身　入我我入　仏加持故　我証菩提　以仏神力
利益衆生　発菩提心　修菩薩行　同入円寂　平等大智　今将頂礼

【舎利礼文 現代語訳】

一心に心を込めて仏の御足を礼拝し奉ります。あらゆる功徳を備えておられる釈迦牟尼如来の御命そのものであられるお舎利と、本源の命であられる「縁起・空」という真理のお体と、真如が教化の為に現象として現われた舎利塔（ストゥーパ）とを、私はそれら全てを敬礼いたします。すると、仏は私の為に現れて、私の中に流れ込み、私は仏の中に溶け込んで（感応道交して）、仏の加護の呼び掛けと、私の頂く願いとの共鳴力のおかげで、私はさとりを実践実証できるのです。仏の不思議な力のおかげで、迷いに苦しむ人々を悟りの安心によって利益することができます。私と衆生に悟りを求める心を起こさせてくださり、私と衆生に悟りを実践させてくださり、私と一切の衆生との全てを完全なる静寂・涅槃に入れてくださるところの、一切に分け隔て無く行き渡るところの偉大なる智慧を、いま確かに頂戴礼拝いたします。仏のさとりを得て、仏の神通力に助けられて衆生に利益を与えられるのです。その衆生もまた仏道を志す心を発して菩薩の修行を実践し、皆共に寂静なる境地に入れてくださるという、無差別平等の大智を今まさに礼拝供養し奉ります。

【十句観音経 原文】

観世音　南無仏　与仏有因　与仏有縁　仏法僧縁　常楽我浄
朝念観世音　暮念観世音　念念従心起　念念不離心

【十句観音経 現代語訳】

観世音菩薩を礼拝し奉る。仏に帰依し奉る。仏によってさとりの種（因）にあらしめられ、仏と、教えの真理と、信心の仲間との三宝のご縁に助けられて、この世は無常であるがさとりの心は永遠（常）であり、この世は苦に満ちているがさとりに包まれて見れば楽であり、この世は自我の角突き合いですが観音と共鳴してみれば無心という確かな我がありました。人間は自分が清らかだと錯覚していますが、それが人を汚しているのです。ですが、仏に照らされると汚れる以前の清らかさに立ち戻ります。ですから朝な朝なに観世音を念じ続け、夕べタベに観世音を念じ奉ります。この一念一念は仏心より起こったものであり、一念一念は無心を離れるものではありません。

【消災妙吉祥陀羅尼　原文】

曩謨三満哆　母駄喃　阿盎囉底　賀多舎　娑曩喃　怛姪他　唵
佉佉　佉佴　佉佴　吽吽　入縛囉　入縛囉　盎囉入縛囉　盎囉入縛囉
底瑟姿　底瑟姿　至瑟哩　至瑟哩　娑發舎佉　娑發舎佉　扇底迦
室哩曳　娑婆訶

【消災妙吉祥陀羅尼　現代語訳】

帰命し奉る。一切の仏たちに。破壊し難い教え主である諸仏に。すなわち、おーん（仏と共鳴する聖音）。虚空よ、虚空よ、呑み尽くし給え、呑み尽くし給え。ふーん、ふーん（諸仏根元の種子よ）。輝き給え、輝き給え、大いに輝き給え、大いに輝き給え。止まり給え、止まり給え。星よ、星よ、現れ給え、現れ給え。平安な（消災）繁栄（吉祥）のために万歳。

参考：『傍訳 曹洞宗読経偈文聖典』（著：中野東禅）

お知らせ

令和四年版『お彼岸のしおり』配布について

曹洞宗宗務庁出版部からのご依頼を受け、令和四年版『お彼岸のしおり』の原稿を副住職が担当させていただきました。

とあるお檀家さんとの対話を通して、ご先祖さまを供養する機会としてのお彼岸の意味、お彼岸に特に実践すべき徳目である『六波羅蜜』について、そして、彼岸（お悟りの世界）と此岸（私達が生きる迷いの世界）とをつなぐ行いとしての「ご先祖のご供養」の大切さについて触れました。

また、しおりには「お彼岸の由来」についてのページもあり、盛り沢山の内容となっています。

当寺事務室にて配布しておりますので、どうぞお気軽にお声がけください。

『花まつりの由来について』

四月八日は、お釈迦さまのお誕生をお祝いする「花まつり」の日です。（当寺では月遅れの五月八日に花まつりを開催しております）お釈迦さまは、今からおよそ二千五百年前、現在のインド国境に近いネパールの地、ルンビニーの花園でお生まれになりました。お釈迦さまの誕生日のお祝いを「花まつり」というのはこのためです。シャカ族の王子としてお生まれになったお釈迦さまは、「ゴータマ・シッダールタ」と名づけられました。一般的に「お釈迦さま」や「釈尊」と呼ばれますが、これは「シャカ族の尊い方」という意味を表す尊称です。伝説では、お生まれになってすぐに七歩進み、右手で天を、左手で地を指差し「天上天下唯我独尊」と宣言されたといわれています。この言葉は「人は誰もが、かけがえのない命を生きている」という、仏教のもつ人間尊重の精神を端的にあらわしています。またこの時に、お釈迦さまの誕生をお釈迦さまの誕生を祝った竜王が甘露の雨を降らせたとも伝えられています。「花まつり」は、曹洞宗寺院だけでなく、多くの仏教寺院や仏教系の幼稚園、学校などで、広く行われています。ルンビニー園の誕生の様子を表した「花御堂」を飾り、その中央には天地を指差した誕生のお姿を安置し、甘露の雨を模した甘茶をかけ、華やかにお祝いされます。　※参考：曹洞宗公式サイト・曹洞禅ネット